

# 道の駅福島と大笹生インター 工業団地の取り組み

第11回 東北中央自動車道の利活用  
促進による地域活性化協議会  
福島市発表資料

# 「道の駅ふくしま」による地域振興



福島市 商工観光部 観光交流推進室

## ① 基本情報

項目	内容
整備手法	一体型（福島県・福島市）
路線名	主要地方道 上名倉・飯坂・伊達線（ <b>県道5号線</b> ）
所在地	福島市大笹生字月崎1番地の1
開業日	令和4年4月27日
敷地面積	27,562㎡
建物構造	道の駅本体・屋内こども遊び場【木造平屋建】 防災倉庫・倉庫【鉄筋造】
延床面積	2,982㎡ 【内訳】道の駅本体：2,262㎡ 屋内こども遊び場：500㎡ 防災倉庫：150㎡ 倉庫：70㎡
施設内容	道の駅本体（直営所・レストラン・フードコート等） 屋内こども遊び場・防災倉庫・耐震性貯水槽・倉庫 駐車場（317台【内訳】大型36台・小型276台・おもいやり駐車場5台） 多目的広場（2,136㎡）・ドッグラン（480㎡） レンタサイクル（10台）・電気自動車急速充電器（1台）

## ② 整備事業費

●総事業費：31億8千万円

●財源内訳：市費25億円・県費5億円・国費2億円

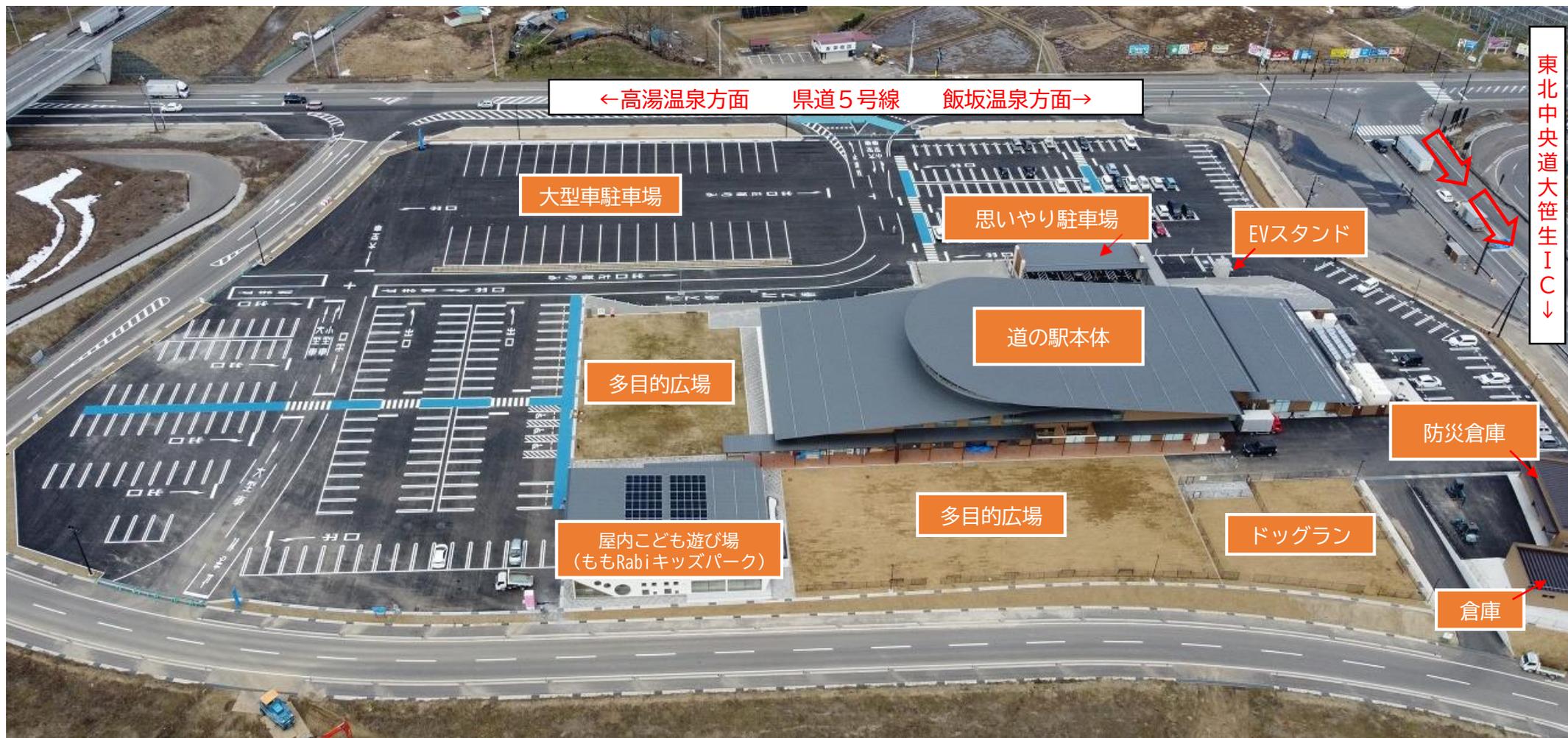
### ●主な経費

- ・本体建築工事：15.1億円
- ・外構工事：5.2億円
- ・用地購入：4.9億円
- ・遊び場工事：2.3億円
- ・防災設備工事：0.8億円
- ・その他工事：0.5億円

### ●活用した補助金：2億1千万円

- (i) 農山漁村振興交付金【農林水産省】：1.9億円  
⇒ 地域連携販売力強化施設（直売所、レストラン等）の整備
- (ii) 二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金【環境省】：1,700万円  
⇒ 低炭素型融雪設備（ヒートパイプ式融雪設備）の導入
- (iii) クリーンエネルギー自動車導入促進補助金【経済産業省】：400万円  
⇒ 電気自動車急速充電器の設置

## ③施設配置図



## ④施設コンセプト

### ●東日本大震災からの「復興のシンボル」

- ・ 防災倉庫、耐震性貯水槽などを整備し、「**広域防災拠点**」機能を兼ね備えた。
- ・ 高速交通網の結節点に立地する強みを生かし、道の駅をゲートウェイとして人を集め、地域への**周遊促進**を図る。

### ●周辺景観との調和

- ・ 敷地内から見渡せる**吾妻連峰の眺望**
- ・ 前面道路（通称「フルーツライン」）沿いの**果樹地帯のイメージ**  
⇒ 施設内でも自然と木のぬくもりを感じることができる、**木造平屋建築**とした。

### ●大人も子どもも、愛犬も楽しめる道の駅

- ・ **屋内こども遊び場**、**ドッグラン**、**レンタサイクル**などを整備し、後発の道の駅だからこそできる**多様な楽しみ方**を提案する。



【自然豊かなロケーションに囲まれた施設】



【採光と開放感を演出した直売所】



【木のぬくもりあふれるこども遊び場】

## ⑤防災拠点機能の整備

防災・環境を意識した、重点「道の駅」に選定。災害時には防災拠点機能を発揮。

●重点「道の駅」とは 【 県内3か所目 (猪苗代・までい館・ふくしま) 】

- ・国土交通大臣が地方創生の核となる特に優れた「道の駅」の企画を選定し、重点的に応援する取り組み。本施設は「第3ステージ」の道の駅として、防災面の取り組みも評価されている。

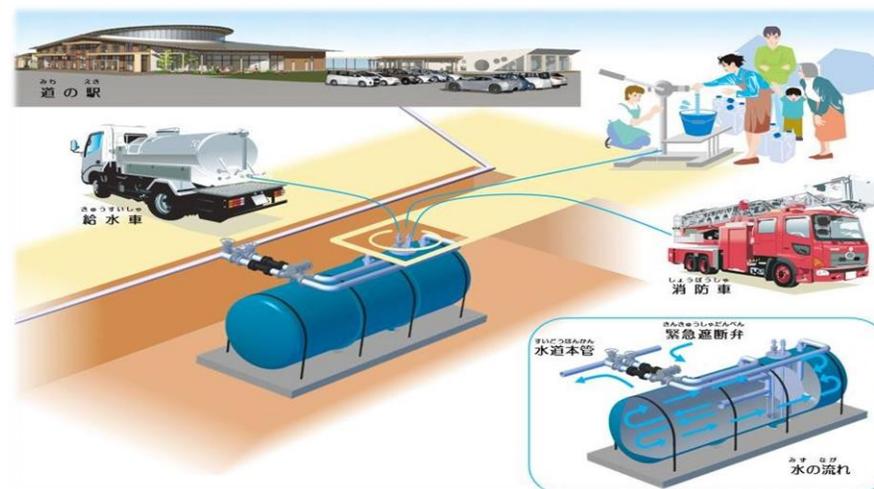


### (i) 防災倉庫

- ・災害等の非常時のために、約400人分の毛布やマットレス、非常食等を備蓄。
- ・市内では本施設に加え、NCVふくしまアリーナなど計3か所に設置。

### (ii) 耐震性貯水槽

- ・災害時に飲料水を供給。火災の際は、消防用水としても使用可能。
- ・約40トンの水を貯水可能。約4400人分の3日分の飲料水を確保。



## ⑥屋内こども遊び場（ももRabiキッズパーク）の整備

夏も冬も安全・快適。木のぬくもりあふれる屋内遊び場。

- ・冷暖房を完備し、木製遊具や砂場を設置した屋内遊び場。

【無料・3部制・定員100名】

### ●設置の経過

#### ◇平成23年3月

- ・東日本大震災及び福島第一原発事故の発生（福島市：震度6強）  
⇒ 本市にも放射性物質が飛散し、**子どもの屋外活動を制限**  
安全に遊べる「**屋内施設**」の設置を計画

#### ◇平成24年9月

- ・市中心部に、屋内こども遊び場「**さんどパーク**」オープン

#### ◇～平成31年1月

- ・長年にわたり親しまれるが、入居施設の老朽化により**閉館決定**
- ・**道の駅ふくしま整備計画**に、「さんどパーク」の**後継施設**として、  
敷地内に「屋内こども遊び場」の整備を含めることが決定



ももRabi  
キッズパーク

愛称は公募で決定！  
市内在住の小学生の  
案が採用された。



くだもの狩りや野菜収穫を模した木製遊具。  
木に触れて地域文化を感じる木の育の場に。



屋内に砂場を設置。  
季節や天気を問わず砂遊びを楽しめる。

## (2) 管理運営方法

### ① 3つの「福島市初」を導入した指定管理者制度

**重要!**

#### (i) 指定管理料ゼロ

- ・一般的には、施設の管理運営経費（＝支出）に対し、施設の利用料金（＝収入）で賄えない不足分を指定管理料として計算する。
  - ⇒ 本施設では、**飲食・物販を中心とする収入（売上）**により、**管理運営経費をすべて充当できる**と試算し、指定管理料ゼロ（※）とした。
    - （※）**屋内子ども遊び場分は指定管理料を支出**
- ・併せて、「**収益に応じた市への貢献策の提案**」を募集条件に盛り込んだ。

#### (ii) 全国公募

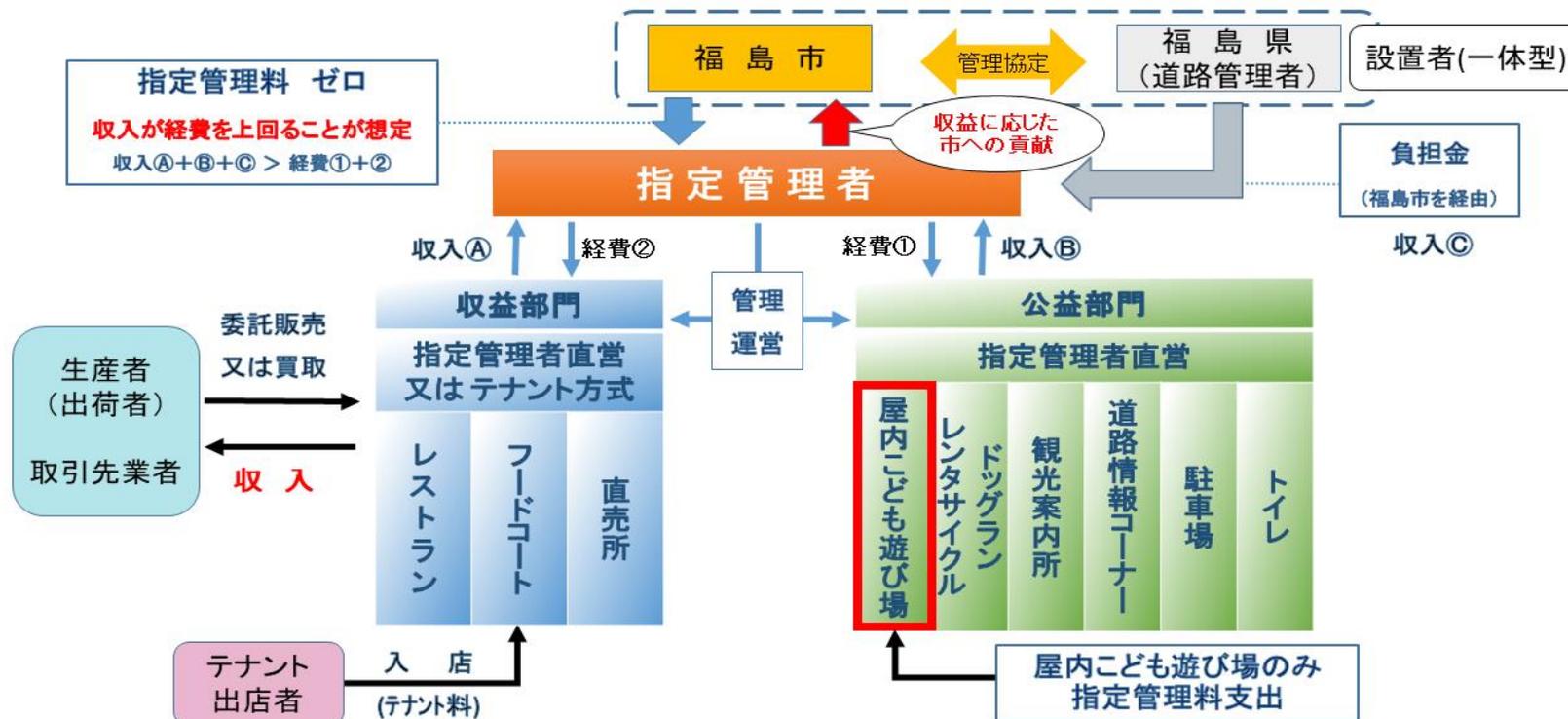
- ・指定管理者の公募方法は、「地域に限定した公募」と「全国公募」の2つが挙げられる。
- ・**より優れた提案・実績を持った事業者からの応募を期待**し、全国公募とした。

#### (iii) 指定管理期間10年

- ・本市の指定管理期間は「5年間」を基本としているが、特別な理由がある場合には「10年間を超えない期間」にできると認められている。
  - ⇒ **指定管理者による投資回収、商品開発やブランドイメージ形成、生産者との信頼関係構築などに要する期間**として、10年を想定した。

## ② 「指定管理料ゼロ」モデルの効果

- (i) 公益部門の一部を除き、市のランニングコスト負担なし (⇒中長期的な財政負担軽減)
- (ii) 指定管理者の「収益確保」と「経費節減」の意識向上 (⇒積極的に取り組むほど、指定管理者の利益も増える)
- (iii) 収益の一部を市に還元 (⇒施設整備に要したイニシャルコストの間接的回収、市の施策への充当)



● 「収益に応じた市への貢献」の実績

【令和5年度】 (令和6年3月)  
・ 地方創生応援税制 (企業版ふるさと納税) による市への寄付 **【200万円】**

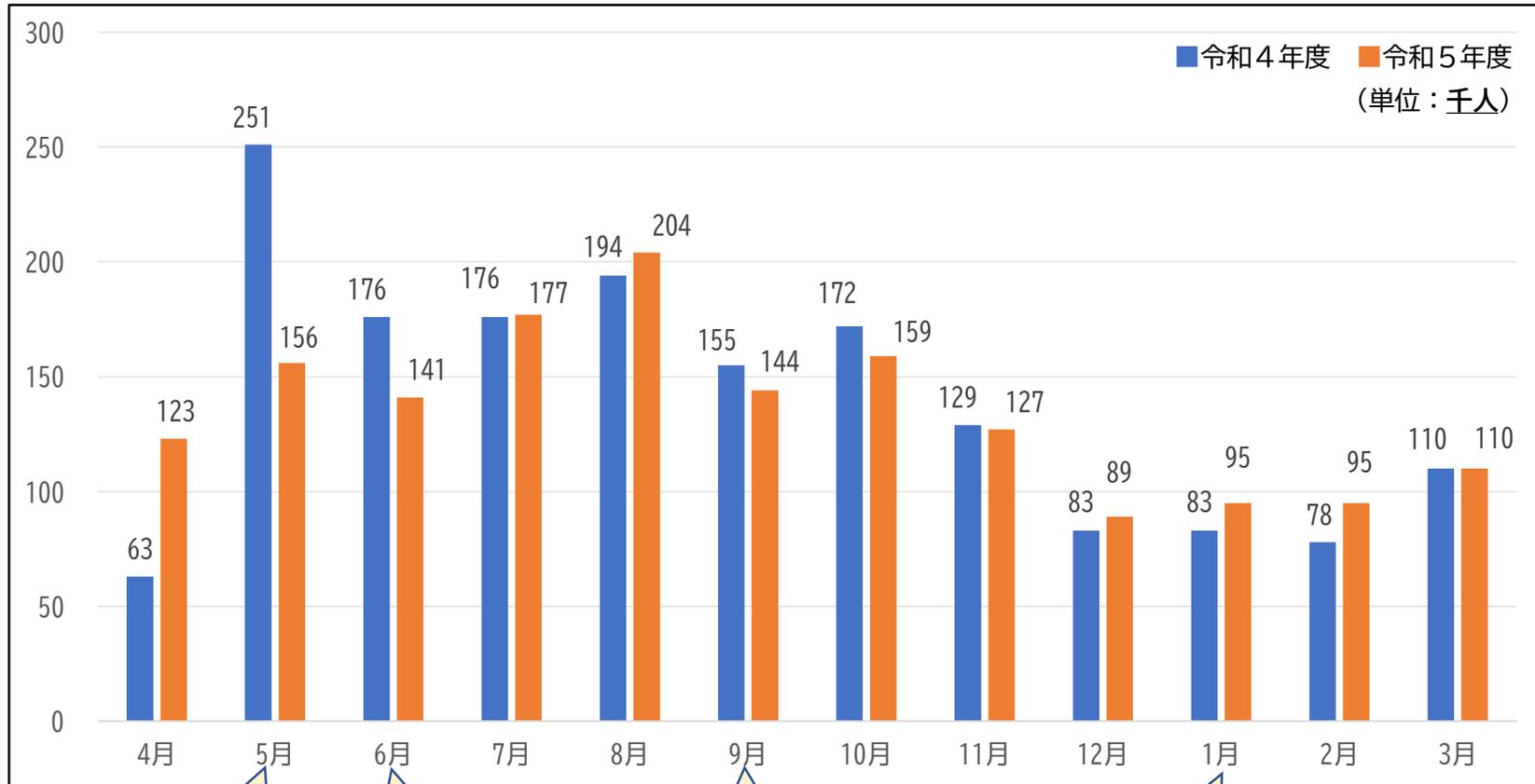
【運営モデル イメージ図】

### ③指定管理者の基本情報（会社概要）

項目	内容
会社名	株式会社 ファーマーズ・フォレスト
設立	平成19年7月31日
資本金	5,000万円（資本準備金 5,000万円）
代表者	代表取締役 松本 謙
従業員数	338名（令和6年3月現在）
経営方針	Local & Individuality×Tec 柔軟な発想と解決力で地域活力を創造するイノベーター
事業概要	<p>【施設運営実績】（※一部抜粋、予定含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅ふくしま（福島県福島市）</li> <li>道の駅うつのみや ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）</li> <li>うるま市農水産業振興戦略拠点施設「うるマルシェ」（沖縄県うるま市）</li> <li>道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター（沖縄県大宜味村）</li> <li>道の駅湘南ちがさき（神奈川県茅ヶ崎市 ※令和7年7月開業予定）</li> <li>道の駅マチテラス日進（愛知県日進市 ※令和7年度開業予定）</li> <li>道の駅こうのす（埼玉県鴻巣市 ※令和8年度開業予定）</li> <li>栃木県アンテナショップ「とちまるショップ」（東京都墨田区）</li> </ul>



## ①来場者数（全体）【令和4年度-5年度比較】



R4.5.4  
来場者数(日計)  
最高記録  
16,312人

R5.6.12  
累計来場者数  
200万人達成

R4.9.27  
累計来場者数  
100万人達成

R6.1.3  
累計来場者数  
300万人達成

### ●年間目標値

・133万人

### ●直近年度実績

・令和4年度：167万人

・令和5年度：162万人 (前年比-3.0%)

### ●傾向と分析

・(開業直後を除き)桃の最盛期を迎える7月から8月にかけてピークとなる。

・施設性質及び周辺地域の気候(大雪地帯)から、冬季は来場者数が大きく減少する。

⇒ 東北地方の道の駅に共通する課題として認識し、運営に取り組む必要がある。

### ●直売所利用者の所在地 TOP5

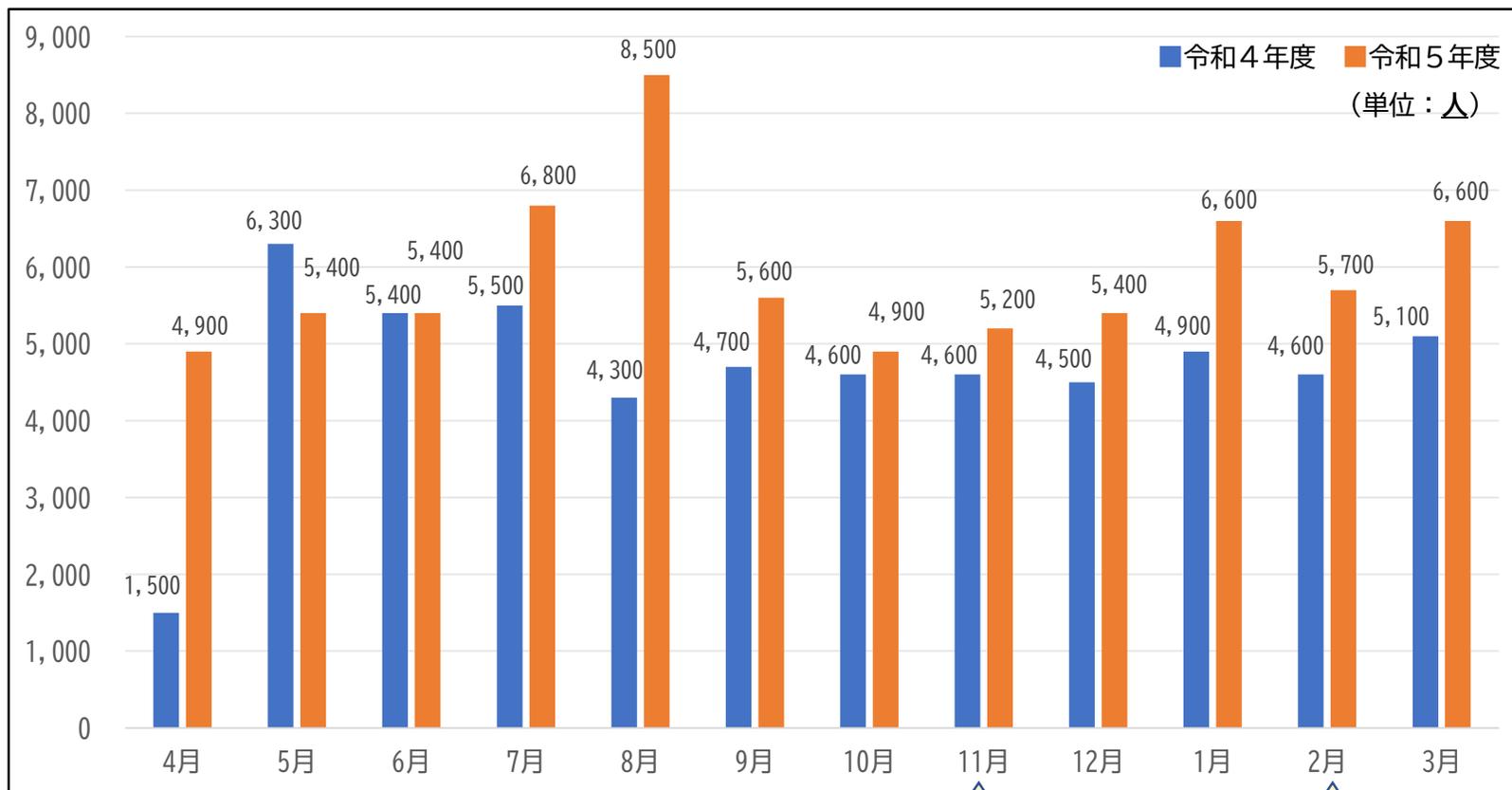
1. 福島県 49.6%

2. 宮城県 12.2% 3. 山形県 11.2%

4. 東京都 4.4% 5. 埼玉県 3.2%

【※dポイントカード年間掲示件数 約54,000件より】

## ②来場者数（屋内こども遊び場）【令和4年度-5年度比較】



R5.11.14  
累計来場者数  
10万人達成

R5.2.23  
累計来場者数  
5万人達成

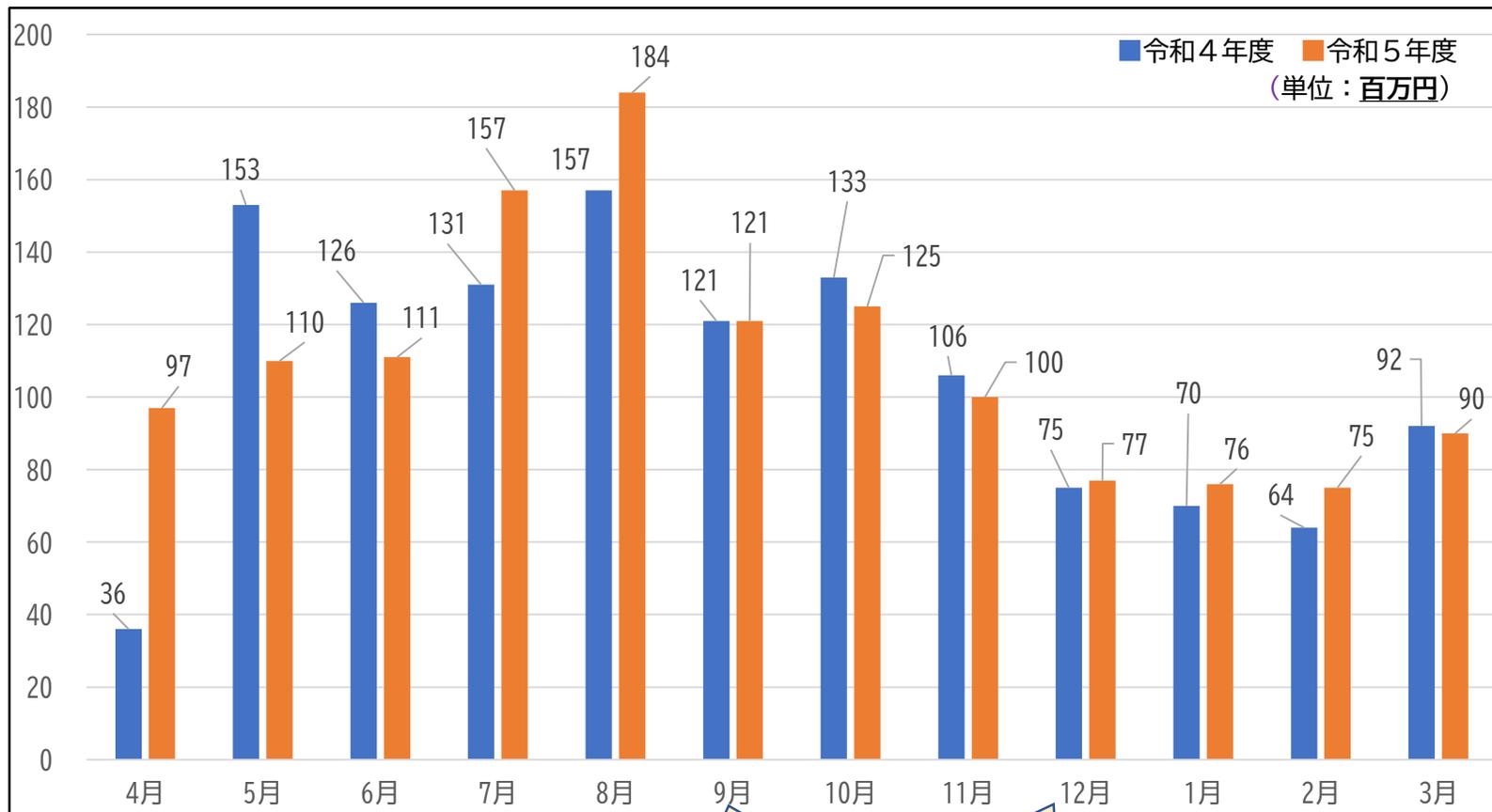
### ●直近年度実績

- ・令和4年度：5万6千人
- ・令和5年度：7万1千人 **(前年比+27.1%)**

### ●傾向と分析

- ・小学校の長期休み期間に合わせて、来場者数が大きく伸びる。  
(※R4.8月はコロナによる臨時休館の影響あり)
- ・飲食、物販部門と異なり、冬季の落ち込みがない。  
⇒ **地元客（市内在住者）を中心に子ども向け施設として定着しているため、冬季気候の影響を受けにくいと推察。**

## ③売上額（全体）【令和4年度-5年度比較】



R5.9.20  
累計売上高  
20億円達成

R4.12.16  
累計売上高  
10億円達成

### ●年間目標値

- ・ 8億円

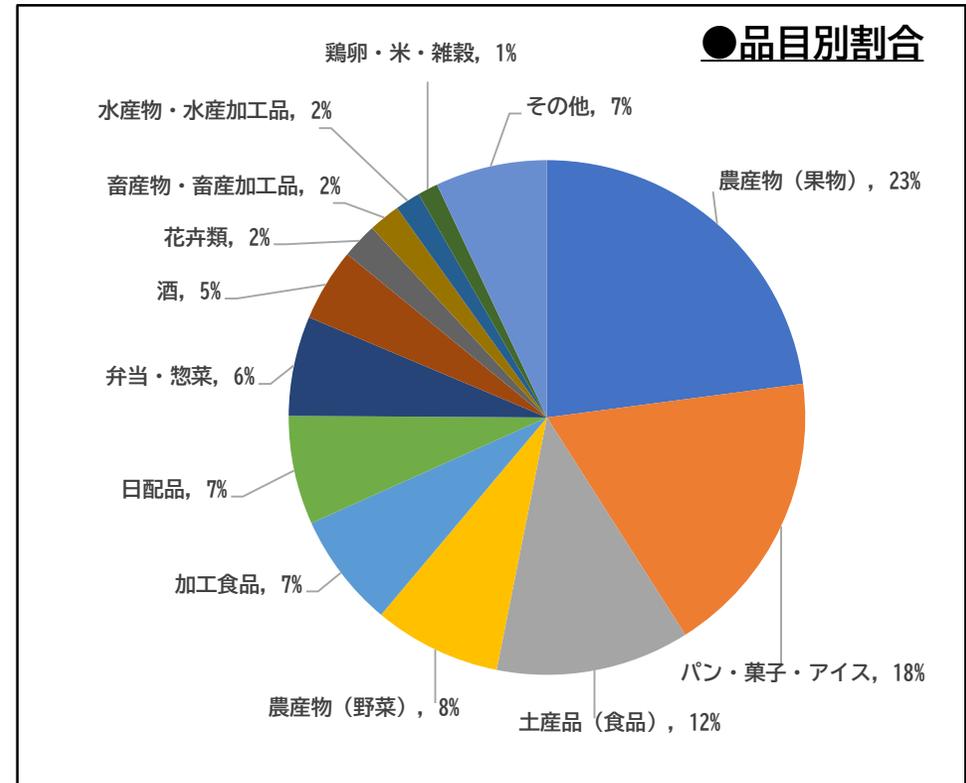
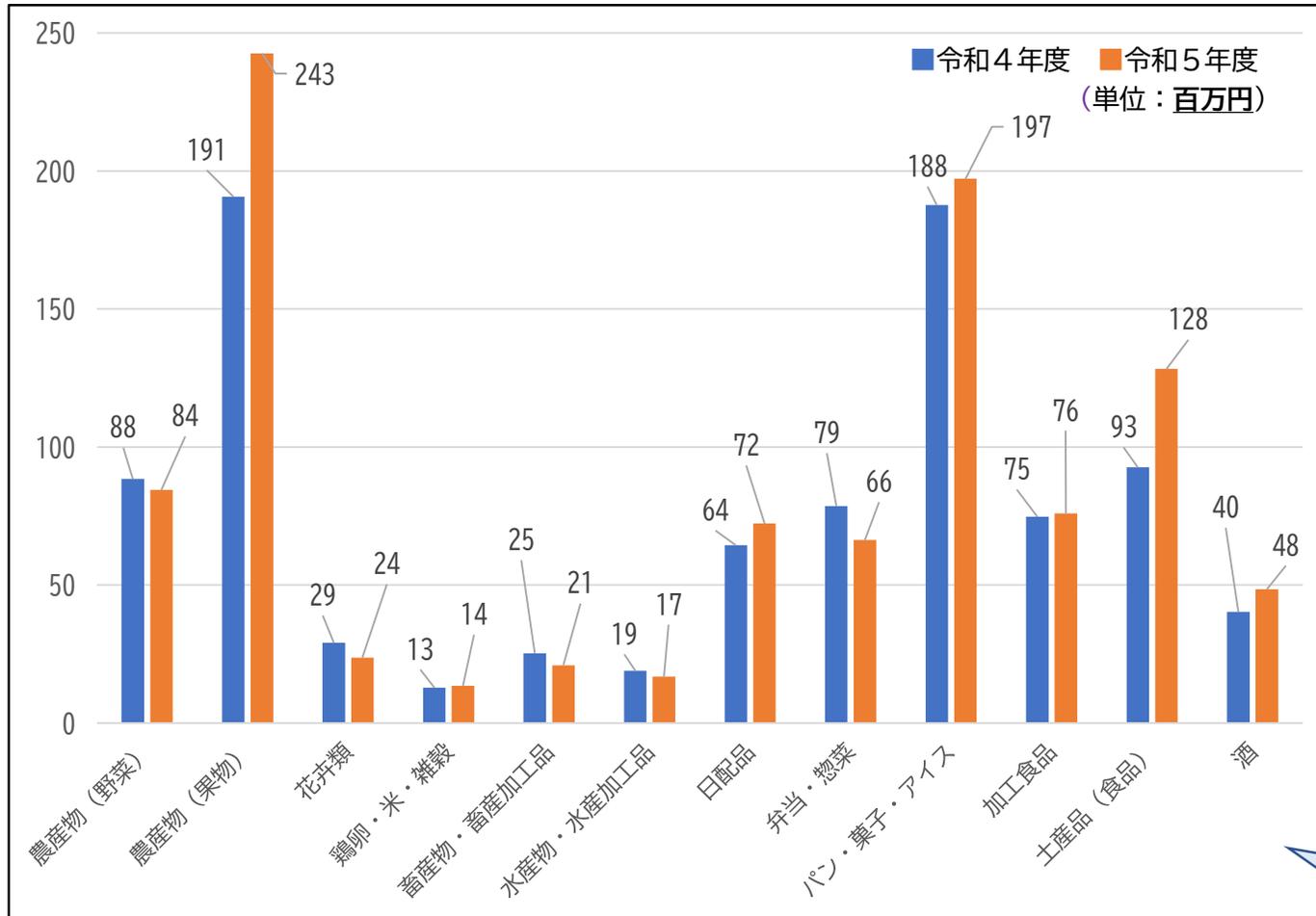
### ●直近年度実績

- ・ 令和4年度：12億6千万円
- ・ 令和5年度：13億2千万円 (前年比+4.8%)

### ●傾向と分析

- ・ 来場者傾向と同じく、桃の最盛期を迎える7月から8月にかけてピークとなる。
  - ・ 同様に、冬季は大きく減少する。
- ⇒ 冬季を下支えする「地元客」をターゲットにした販売施策やイベント展開が必要。

## ④売上額（直売所の取扱品目別）【令和4年度-5年度比較】



●**農産物 (果物) の売上が著しく増加**

- ・生産者への積極的な支援 (※後述)
- ・初年度実績を踏まえた「道の駅に出せば売れる」という意識の広がり

⇒ **取引生産者の増加による、商品確保の強化が要因**

## ①生産者への支援

### (i) 生産者協議会の組織化

- ・生産者約250名が加入（令和6年4月現在）
- ・年4回の役員会、年1回の全体集会を開催

#### 【効果】

- ・懸案事項を生産者とともに協議し、商品の品質向上等に寄与する。
- ・外部講師を招いた研修会を開催し、生産者のレベルアップに繋がる。

### (ii) 自社トラックによる農産物集荷

- ・生産者の自宅、または近隣スポットまでの自社集荷

#### 【効果】

- ・生産者は農作業の繁忙期においても、作業に集中できる。
- ・運転が難しい、自信がない高齢生産者でも、出品ができる。
- ・道の駅側にとっても、売り場の質・量の充実というメリットがある。



荷室が2つに分かれ、それぞれに冷凍機を搭載した特殊仕様のトラック。  
保存温度帯の違う荷物を同時に輸送する事が可能。  
最大積載量は2000kgと、輸送力も十分。



生産者と集荷担当者。  
収穫前の野菜の育成状況を確認し、集荷商品を受領する。

## ①生産者への支援

### (iii) 天候被害(雹害)を受けた農産物の積極的活用

- ・福島市内にて発生した雹の被害を受けた果物(桃)の受け入れを実施。
- ・直売コーナーでの販売支援に加え、スイーツショップ(※指定管理者直営のフードコート店舗)で雹害桃を使用した新メニューを開発した。

#### 【効果】

- ・廃棄が想定される農産物の販路を確保し、生産者の利益が生まれる。
- ・市全体でのフードロス削減に寄与。



雹害桃に注釈を付し、直売所で販売

### (iv) 若手生産者有志(ふくしまベリーボーイズ)との連携

- ・1月15日の「いちごの日」に合わせ、「いちごフェア」を開催。
- ・若手生産者が売り場に立ち、自ら生産したいちごを販売。

#### 【効果】

- ・ふくしま「いちご」の認知、ブランド力の向上。
- ・冬季閑散期における誘客力の向上。



福島の新品種「ゆうやけベリー」をはじめ、5月頃まで販売展開

雹害桃を使用した限定新メニュー



来場者と生産者の交流創出



## ②地域周遊の促進

### (i) 道の駅ふくしまアプリ「周遊手形 縁(えにし)」の開発

- ・ 指定管理者が独自開発したスマートフォンアプリ。
- ・ 電子ポイントやクーポン発行のほか、周辺観光情報などを掲載。

#### 【効果】

- ・ クーポン登録店舗は誘客ツールとして活用可能。
- ・ 利用者の属性データを把握でき、マーケティングに活用できる。



入館時にQRコードを読み込むとポイントが加算。  
道の駅での買物で使用可能。

登録店舗で割引やお得なサービスが受けられるクーポン



## ②地域周遊の促進

### (ii) 「フルーツラインエリア観光推進協議会」の設立・運営

- ・指定管理者を中心に、約20の団体（地域の観光協会・大学・民間事業者など）が加入する、周辺観光推進を目的とした協議会を設立。
- ・旅行商品の造成、地域産品の開発を進めている。

#### 【効果】

- ・集客力を地域に還元し、市全体の観光入込数増・消費額増に寄与する。
- ・道の駅を発着点に設定できるため、旅行商品造成がスムーズに進む。

### (iii) 生産者協議会による自主イベントの開催

- ・周辺地域をウォーキングする市民参加イベント「あづま山麓ウォーキング」を開催した。（令和6年9月初開催）

#### 【効果】

- ・コース設定等に生産者目線を取り入れ、新たな地域資源を発掘できる。
- ・地域文化を知ってもらうことで、観光需要を刺激できる。



周辺果樹園での果物狩りを盛り込んだ旅行商品

福島市の養蚕文化を次世代に伝える「エシカルビール」を開発・販売。養蚕に関わる原材料（桑の葉や実）や、これまで廃棄されてきた副産物（蚕沙）を使用している。



## ③都市間交流・支援の促進

### 「つながるフェア」(直売所企画)の実施

- ・指定管理者が運営する他拠点(沖縄・栃木等)や、本市のパートナーシティである豊橋市「道の駅とよはし」と連携した、直売所での交流販売企画。
- ・令和6年3月には、能登半島地震による被災地域を支援するべく、「北陸応援つながるフェア」を開催。

#### 【効果】

- ・全国各地に本市の魅力を発信できる。
- ・地域に根付く食や文化の相互理解と交流を促進できる。



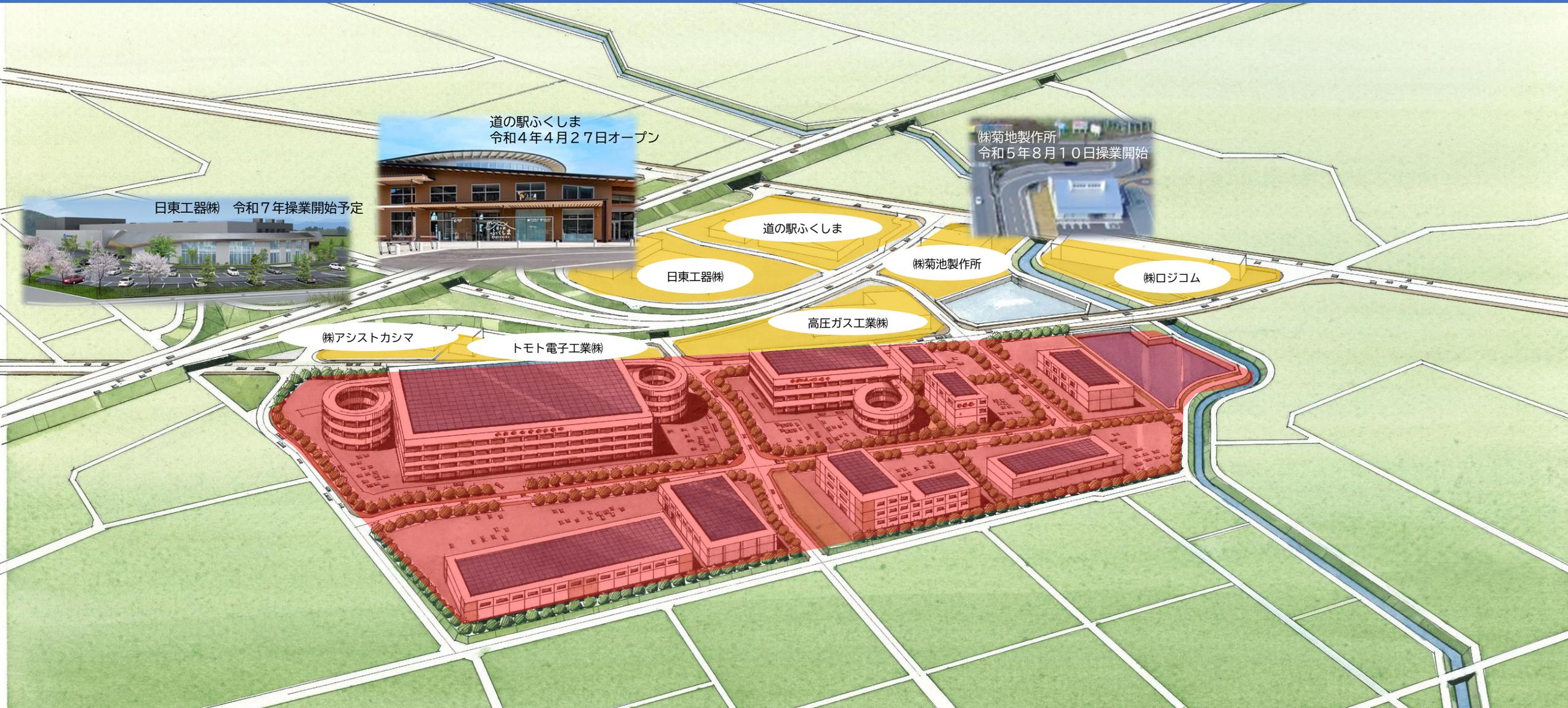
道の駅ふくしまキャラクターの雪うさぎと、沖縄のシーサー



北陸応援つながるフェアの売り場付近に募金箱を設置し、被災者支援にも寄与

レストランではコラボメニューを提供。福島第一原発処理水の放水開始による風評被害払拭の一助ともなるべく、福島県相馬市産あおさ(「常磐もの」)を使用。

# インター直結の工業団地 「福島おおぞらインター工業団地」の整備



# 工業団地の整備 「福島おおぞそうインター工業団地」

## 概要

- 計画面積:32.9ha (第1期:13.4ha 第2期:19.5ha)
- 第1期造成着工:平成30年6月
- 第1期造成竣工:令和 2年1月
- 第2期造成着工:令和 5年12月
- 第2期造成竣工:令和 8年1月(予定)

## 第1期区画 立地企業

(株)アシストカシマ	福島産果実を使用したゼリー等の加工品、カットフルーツ等の生産
(株)菊池製作所	先端医療・福祉・サービスロボットの研究開発、生産
高圧ガス工業(株)	酸素ガス、窒素ガス等の産業用ガスの生産
東北日東工器(株)	省力化機械工具、建築機器（ドアクローザ）の生産
トモト電子工業(株)	ワイヤーハーネスの生産
(株)ロジコム	主に自動車部品メーカーに対する物流サービス

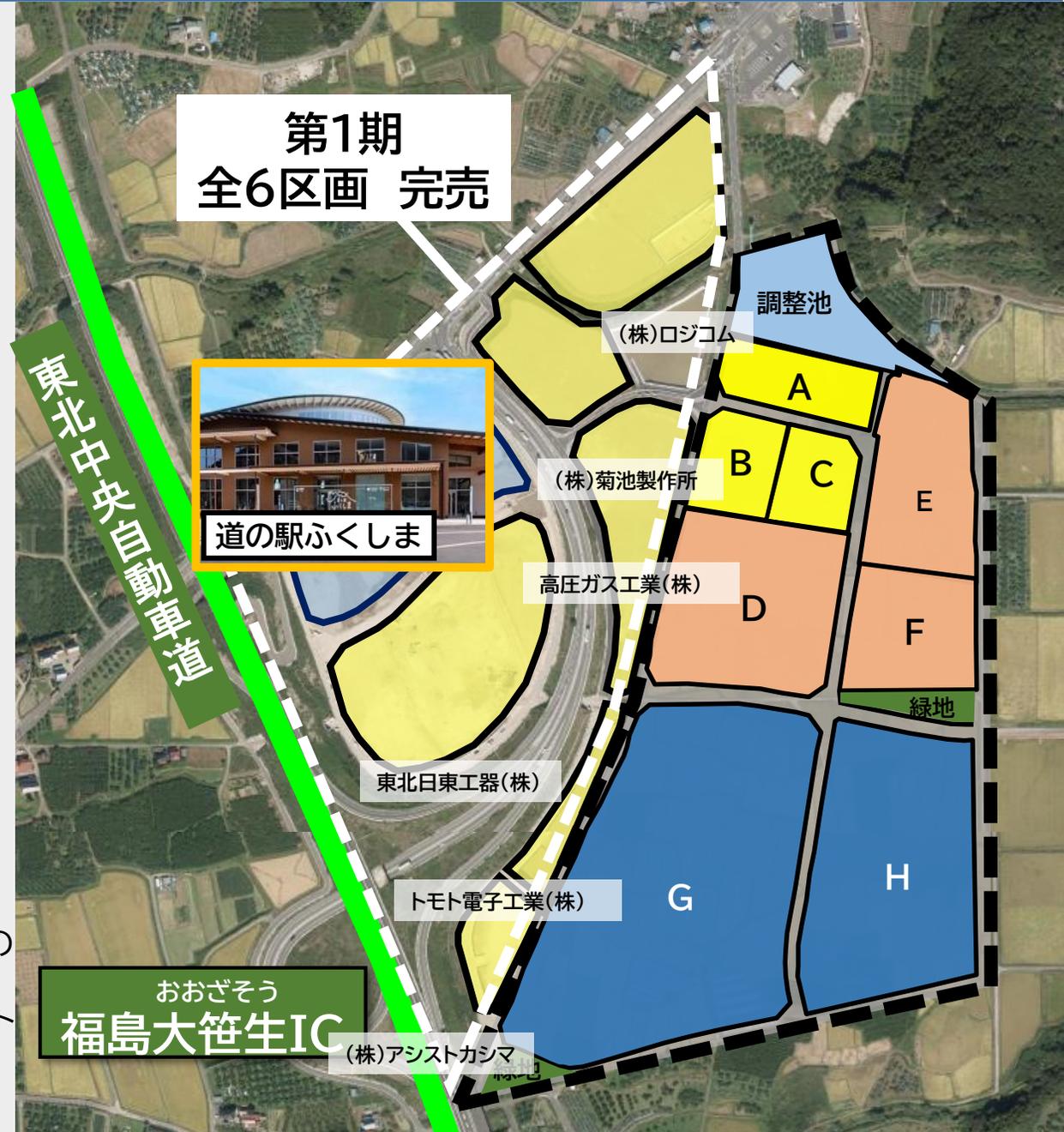
## 本工業団地の強み～道の駅ふくしまとの連携～



公民こねくと×道の駅ふくしま  
6次化商品の開発を目指す企業が、試食モニター調査を実施。



立地企業×道の駅ふくしま  
コラボイベントを実施。



# 工業団地の整備 「福島おおぞそうインター工業団地」

## 第2期区画 予約販売開始

○抜群の交通利便性を誇る南東北のクロスポイント

住所 福島市大笹生字塚田 外 地内 現況 造成中(令和8年1月完了予定)

用途地域 工業(地区計画あり) 地目 宅地

### 区画

区画	小区画			中区画			大区画	
	A	B	C	D	E	F	G	H
面積(ha)	0.72	0.63	0.56	2.22	1.16	1.40	5.93	3.40
造成完了予定	R7.1月			R8.1月				

### 販売スケジュール

     予約申込受付
      予約分譲先決定
      契約・引き渡し(最短)

	令和7年			令和8年	
第1次公募 (A区画)	1月17日 ~ 4月18日	7月		1月	
第2公募 (B~H区画)		6月~9月	11月		7月

